

# 大念佛

No.106

発行/融通念佛宗  
総本山 大念佛寺大阪市平野区平野上町1-7-26  
TEL.06-6791-0026このQRコードで  
大念佛寺にアクセスできます。大念佛寺 で 検索  
<https://www.dainenbutsuji.com/>

題字：融通念佛宗 管長 吉村暉英

## お盆によせて

融通念佛宗 宗務総長  
田中瑞修

今年もご先祖の御霊をお迎えするお盆がやってまいりました。以前あるお寺の老僧がお盆は坊さんの修行の時だとおっしゃった事を思い出して、自身も高齢となりその言葉が実感されるようになりました。その修行のお盆とは二千五百年以前、目連尊者とその母の物語より生まれたものであります。

目連尊者はお釈迦様の十大弟子の一人で神通力第一と称えられたお方でありました。ある日のこと懐かしい母の事を思い、亡き父母の姿を神通力で見たところ、父は天上界におられたが母の姿が見当たらない、まさか地獄に落ちてい

お盆は正しくは盂蘭盆と称されインドサンスクリット語の音訳で倒懸とは逆さまに吊るされているような非常に大きな苦しみと訳されます。この倒懸とは私達の日常の心のあり方を表しているものです。日常の生活の中において知らず知らずの間に苦しみの原因を作り、自ら苦しみを積み重ねている姿です。

### 例えば

◎覚えなくてはならないことを忘れ、忘れてしまえばよいことをいつまでも覚えていて。

◎聞かなくてはならないものを聞かず、聞かなくてもよいものを聞いている。

◎正しいことを見なければならぬのに、間違った方を見ている。

◎善行を積み重ねなければならぬのに、楽な悪行を行ってしまう。

挙げればきりがなほど日常生活の中で見方、考え方が逆立ちしている事を繰り返して、苦しみより離れられない自分を作っているのではないのでしょうか。「お盆は日常の言動を振り返り反省し過ちを繰り返すことのないように自らを正す修行の日」と心得ていただくことも一つの意義ではないでしょうか。

お盆の行事で欠かすことのできないのがご先祖様のお墓参りです。お参りは家族揃ってお参りするようにならう。墓前にはお盆の供物、お花、線香、ローソク、お水を手向けて、ご先祖様に感謝の真心をお供えいたしましょう。お墓参りで大切なことがもう一つあります。それは無縁墓地にもお

参りすることです。小さな村社会においては二代、三代と廻れば間違はなく有縁の糸で結ばれています。無縁墓も我が家と同様にお花、線香を手向けて、日頃供養いただけない仏様に手を合わせましょう。お盆に供えるお花、盆花は桔梗、女郎花、萩、萩萩、鬼灯など野の花を供えます。これは精霊は山や野にあつて子孫を見守っていると伝えられることからです。私達の子供の頃は盆花を採るのは子供の役で、普段山や川で遊んでいる時に花を見つけておき、採りに行ったものです。最近では野の花も少なくなってきました。

お盆のお供えは精霊棚を作り、ゴザを敷きその棚にご本尊やお位牌をおまつりし、その前にお花、お供物等を供えます。場所は仏壇の前や、床の間に組み、餓鬼の供養は縁側に作ります。お供えはキュウリで馬を作り、ご先祖様が少しでも早く家にお帰りいただくように、また茄子で牛を作り供え、これはご先祖様が少しでもゆつくりと浄土にお帰りたいだくようにとの願いからです。馬は内向きに牛は外向きにお供えします。お給仕はそれぞれの家でメニューがあるようですが、お茶湯を欠かすことなくご先祖様の好物、季節の物、心のもったお給仕で供養してください。お盆の供養をいただいたご先祖の霊は、送り火に足元を照らされ浄土へとお帰りがたします。お盆はご先祖の供養で過ぎていきますが、お盆のみならずご先祖は常に私達を見守っていただいています。常に感謝と崇敬の念を忘れず持ち続け、供養を相続してまいります。



# 落慶法要のぶー報告

教学部長 沢田 善秀

令和八年五月一日早朝、本山はいっ

添えて下さいました。午前十時過ぎ

は何度も何度も習礼を重ねられました。

さて、法要が終わると続いて式典が

始まりです。吉村管長陛下の挨拶に

続き、好野庶務部長から事業報告が

完成し、今年のお正月からはいつも

通りに参詣者をお招きできるように

入堂され、法要が開始されました。

今回の法要の白眉は何といっても法

要の中での二十六菩薩の散華に尽き

ます。

となつたのです。本山職員のみならず、

法要出仕の讃師、座奉行、楽役、菩

薩役、そして裏方として寺庭婦人会、

青年会、大和禪門講の方々に至るまで、

かつてない陣容でこの日に臨みました。

心配された天候は法要が始まる頃ま

で雨が残り、風もそれなりに吹き付

けていました。午前八時半を回った

頃から来賓の方々がお越しになり、

受付が動き出します。今回は落慶法

要という事で、各宗の代表の方々が

多数お見えになられ、お祝辞をいた

だいた四天王寺の瀧藤管長陛下や天

台宗の細野宗務総長、また薬師寺の

生駒管長陛下、京都大原三千院の小

堀御門主、吉野金峯山寺の五條管長

陛下といった、錚々たる方々が花を

舞楽 振鈴



楽役の調べ、武衆の声明が流れる中、

二十六体の菩薩が本堂後門より静か

に入堂され、散華をされる姿には来

賓寺院の方々のみならず、末寺来賓、

特別招待の方々までが息をつめて見



いなせ和楽器奉納

「落慶」。どちらも日頃の研

鑽が実を結んだ素晴らしい

舞でした。続いて午後二時

からは本宗楽融会の舞楽



中村美津子コンサート

皆さんはゴールデンウィーク明けの

五月七日からアフリカ公演でエチオ

ピアなどの国で演奏をするため日本



## 二十五菩薩と地蔵菩薩による散華式

菩薩役役長 大東 良弘

侶達による日頃より修練された、各

諸役の力の結集で讃師、楽役、菩薩

役が揃う私達にしか出来ない法要で

あったであろうと思う。互いに融け

あい助け合う、滞りなく通じ合う融

通念仏の教えそのものであった。こ

の歴史的な貴重な瞬間に立ち会い、

共に参加することが出来た私たちに

は生涯忘れることが出来ない、大き

な喜びとなった。この日を迎えるま

で、多くの人々の極楽往生の願い

と祈り、そして改修の為の多くの人々

の尊い寄進があった。その結晶とも

いえる落慶法要は、単なる建物の完

成を祝う法要ではなく、過去から現

在へと、先人から受け継がれた仏法

をつないでいく尊い法要であった。

融通念仏宗大念佛寺の法の宝、建物

としての宝、そして法要を支える人

の宝が、これからも護り受け継がれて、

仏法興隆、衆生済度の一端となり続

けることを願う。





# 「落慶表白文」を読み解く

―時代を超えて響く「融通」の精神―

教学部 吉田 貴寛

「令和の本堂大改修落慶法要」この百年に一度の記念すべき法要の核心をなすのが、仏前に捧げられた「表白文（祈願文）」です。そこには、単にお寺の完成を喜ぶだけでなく人と人、人と神仏を響き合わせる深いメッセージが込められています。この表白文は法要導師を勤める者がしたためるもので、大念佛寺では法主の吉村暉英猷下が執筆、奏上されました。ここではその全文を紹介いたします。



## 表白文

謹しみ敬つて融通本尊一仏中立十聖圓  
統一大法身天得阿弥陀如来  
忍土教主釋迦牟尼無上大覚世尊 十方三世一切之諸仏

文殊普賢觀音勢至等の諸大薩埵 別して  
は融通護法多聞天王

宗門鎮守八幡大士 殊には 宗祖聖應大師  
中興法明上人

再興大通上人 総じては虚空法界 一切  
三宝の境界に白して言さく

方に今

摂陽の地 杭全の里 平野郷 大源山  
諸仏護念院大念佛寺

此の浄刹に於いて 本堂銅板瓦葺替工事  
並びに耐震設備敷設工事等の完成を喜び

落慶讃仰 感謝報恩の大法会を刷い、仏

法興隆 世界平安 宝祥延長 万民豊樂  
を祈願するものなり

然のみ成らず

法施財施の二施 哀愍納受して諸願を  
成就円満せしめ給え本尊威徳顯揚を祈念  
し諸天善神の擁護を仰ぐ

惟るに

大源山大念佛寺は宗祖聖應大師の大念  
佛弘通の發露に基づく常恒不断の鍊行修  
法の根本道場にして仏法興隆の一大殿堂  
なり 十方の三宝 当堂の完成に光輝あ  
らしめ給わんことを

伏してをう

国土安穩 山内安全 息災延命 如意  
吉祥 檀信和合 所願成就 乃至法界  
平等利益

維 時令和八年五月一日

融通念佛宗管長 総本山六十七世法主  
常説化院 定光暉英 敬白

■ 神仏を勧請し、捧げる感謝

表白文の冒頭は、あらゆる神仏を一堂  
にお招きする「お迎えのごあいさつ（勧  
請）」から始まります。融通本尊である  
阿弥陀如来を中心に、お釈迦様や文殊・  
普賢菩薩、観音・勢至菩薩といった諸菩薩、  
さらには宗祖聖應大師をはじめとする歴  
代の高僧たちの名が連なります。

千年の歴史を繋いできた先人たちの  
深い敬意と感謝が、この名の連なりに込  
められているのです。

■ 四つの大願と「万民豊樂」の思想

今回の大改修の象徴的な事業である「銅  
板瓦葺替え工事」や「耐震設備敷設工  
事」などが施され、令和の御堂へと生ま  
れ変わったことを報告したのち、祈願文  
は四つの大きな願い（大願）を提示します。

それは、「仏法興隆」「世界平安」「宝  
祥延長」「万民豊樂」です。

仏教がこれからも栄え、世界が平和で  
あり、人々が豊かで幸せに暮らせること  
を心から祈る意味が込められています。

■ 宗祖「決意の地」からの祈り

「お念仏の教をみんなに届けたい」と  
深く願われた宗祖聖應大師。今、良忍

上人発願の日本最初の念仏根本道場にお  
いて、「どうか、すべての神仏が完成を  
喜び、ここを温かい光で満たしてくださ  
いますように」と祈りを捧げます。

■ 現代に響く「平等利益」融通の神髄

表白文の後半は、この大改修に真心を  
寄せた人（財施）、祈りを捧げた人（法  
施）、そのすべての思いをどうか受け止め、  
一番に叶えてほしいと神仏へ祈り捧げ、  
結びにおいて最もスケールの大きな言葉  
へと至ります。

「乃至法界 平等利益」

「法界」とは、この宇宙に存在するす  
べての世界、あらゆる生命を指します。

つまり、自分を支えてくれる身内や人間  
社会の幸せにとどまらず、「この世のす  
べての生きとし生けるものが、平等に幸  
せの恵みを受けられますように」という  
究極の願いで締めくくられているのです。

一人の念仏が万人の念仏と響き合い、  
すべての命が繋がりが合うという「融通」  
の教え。新しくなった大念佛寺の本堂か  
ら発せられた表白文は、現代を生きる私  
たちに、「融通」の心を力強く論してく  
れています。

## 幽霊の遺品や絵画十二幅を特別公開「幽霊博物館」開催

毎年恒例の「平野まちぐるみ博物館」  
より大念佛寺では八月二十三日（日）に  
「幽霊博物館」が一日限定で開催します。  
寺に伝わる幽霊ゆかりの宝物や、迫真の  
幽霊画が一堂に会する恒例の催しです。

開催時間は午前十時から午後四時までで、  
入場は無料となっています。展示の中心  
となるのは、同館の由来にもなっている  
寺宝「亡女の片袖」と香盒です。これら  
は生前の執着を残した霊から直接託され  
たと伝えられており、同寺の不思議な縁  
起を今に伝える貴重な品々です。さらに  
会場では、作者や来歴が謎に包まれた十



融通念佛宗青年会  
落慶万部法要  
活動報告  
融通念佛宗青年会  
片井 順香  
QRコード  
@YUZUSEI26

青年会では僧侶同士、日々意見を出し  
あい、講習会、ボランティア活動など様々  
な活動を通して研鑽に励んでいます。そ  
の中の活動の一環として本年は五月二日  
から六日まで、大念佛寺 無料休憩所にて  
沢山の方にお寺や仏様に興味を持って  
いただけるように、青年会活動報告のパネ  
ルを展示したり、グッズ販売、ぼさつぬ  
りえコーナーを作り、色鉛筆でカラフル  
に塗って最後に願い事を書いてもらいま  
した。色とりどりのぼさつさと皆さんの  
願い事、思い、希望、目標が書かれた  
ぬりえを会場内に貼っていき華やかな雰  
囲気になりました。

その後、青年会の僧侶によって祈願法  
要を勤め、お焚き上げさせていただきました。  
今後は青年会では皆で力を出し合い、  
経験や精  
進してい  
きたいま  
すと思いま



二幅の幽霊画も特別公開されます。描か  
れた幽霊たちが放つ、写真やデジタル画  
面では決して伝わらない「迫真の気配」や、  
凄みのある幽霊の世界を生で体感できる  
貴重な機会となります。

※会場では、この時にしか手に入らない  
「限定御朱印」を授与いたします。珍  
しい二層仕立ての「重ね御朱印」とな  
っており、参拝の特別な記念としてふ  
さわしい逸品です。夏の終わりに、ひ  
んやりとした世界に浸ってみてはいか  
がでしょうか。

## お盆に関するあれこれ

〜お家で伝承されている供養のしかた〜

これまで連綿と伝わってきたお盆の供  
養ですが、地域やお家によってお祀りの  
方法に特徴があり、独自の進化を遂げて  
いる所もあるようです。

この記事ではあくまでもその地域・お  
宅の一例としてあげさせていただきます。

「ご先祖様にお盆にかえってきてもら  
って精一杯のおもてなしをさせていた  
く。」という心持ちを第一としてもって  
いただきながら、それぞれの家のなりの  
方法で継承してご先祖様とのつながり  
を感じていただけたらと思います。

● 十一日  
お寺へ経木塔婆のお迎えのためにお参  
ります。

● 十二日  
買い物・お墓の供花を鑑と交換する。

● 十三日  
朝からお仏壇まわりの準備。  
御供え物（スイカ、ブドウなどの果物と  
ナンキン、キュウリなどの夏野菜をハ  
スの葉の上に供える。）  
おがらを「おこ（天秤棒）」に見立てて、  
仏壇内の斜めに立てる。  
仏壇の供花を鑑に交換する。  
お昼からお茶湯のお供えを始める。  
夕刻、先祖様を迎えにお墓に行灯を灯  
して帰宅。お家によってはお団子を御  
供するところもあり。

● 十四日  
お供え物  
※お供え物の出汁は昆布のみで、鍋な  
どの調理器具はお盆用の物を使用する。  
その間、家の人はお供え物と同じ食  
事を頂く。

● 朝 ささげ豆のご飯・お漬け物  
※最近ではささがけがなかなか手に入ら  
ないので小豆で代用することが多い  
● 昼 そうめん、煮物（麩、干瓢、椎茸  
湯葉）  
● 三時頃におやつを御供えする。  
● 夕刻 白ご飯、煮物「五種のヒラ」  
（田芋、高野豆腐、牛蒡、椎茸、人参）  
● 十五日  
朝 芋おかゆ、おひたし（茄子や十八





# 風鈴に願いをのせて

## 夏の風物詩 鈴願成就 開催

【開催日】 七月十一日(土)～八月三十一日(月)

【時間】 午前六時～午後五時

【開催地】 大念佛寺山門前

【料金】 風鈴期間奉納 二千元

風鈴、木札、祈禱代を含みます

【申込み】 大念佛寺 本堂売店

【風鈴お持ち帰り】 八月三十日(日)～九月三十日(水)

までに本堂売店までお越しください。

「風鈴に願いをのせて」をテーマに、新しく完成した本堂の下で、色鮮やかな風鈴の音色に癒やされながら心願成就を祈願する、当山の夏の風物詩です。

皆さまに学業向上や諸芸上達といった大切な願いを木札に込めていただき、風鈴とともに境内に奉納していただきます。期間中は、心地よい夏風に揺られた風鈴たちが涼しげで美しい音色を響かせ、どこか懐かしく美しい、日本の夏の情景が広がります。なお、奉納していただいた風鈴は、当山にて祈禱・奉納したのち、お持ち帰りいただけます。



また、終盤となる八月三十日(日)の午前十一時から、皆さまの願いの成就を祈る「祈願法要」を厳修いたします。今年の夏は、日々の喧騒を離れ、涼やかな風と音色に包まれた当山の境内で、特別なひと時をお過ごしになりませんか。皆さまのご参拝をお待ちしております。

# 【六彩印章】 重ねおしスタンプラリー 好評開催中

境内の魅力を見直し、豊かな色彩が織りなす参拝記念の一枚

【時間】 午前九時三十分～午後四時(諸堂の開門時間に準じます)

【参加費】 三百円(ポストカード・専用台紙代)

【販売場所】 本堂 売店

本年五月一日より、境内六箇所を巡る新しい試みとして「【六彩印章】重ねおしスタンプラリー」を好評開催しております。本堂大改修を経た壮麗な諸堂を様々な角度から味わいながら、色鮮やかな記念の一枚を完成させる本イベント。開始以来、多くの参拝者の皆様から喜びの声が寄せられています。

この「【六彩印章】」は、一色ずつ押印を重ねることに徐々に絵柄が浮かび上がり、最終的に美しい本堂の姿が立ち上がる特別仕様のポストカードです。まるで伝統的な浮世絵の多色刷りを体験するような感覚で、大人からお子様まで夢中になってお楽しみいただけます。

スタンプの設置場所は、境内の主要な見どころを結ぶ六箇所に設定されています。①番から順に薄い色から重ねていくことで、最も美しい仕上がりとなるよう工夫されており、自然と境内をくまなく歩き、当寺の歴史と建築美に触れていただけるようになっております。

実際に参加された方々からは、「六色が綺麗に揃ったときの色彩が素晴らしい」



「境内が手軽に回れる広さなので、散策がてら楽しく参加できた」といった嬉しいお声が多く届いており、日々の喧騒を離れて心を落ち着かせるひとときとして、大変ご好評をいただいております。完成したポストカードは、専用の台紙(三百円)に入れてお持ち帰りいただくことができ、ご参拝の大切な思い出、またご自宅を彩る記念品としても最適です。緑豊かな境内の散策の折に、ぜひ一度、この豊かな色彩の重なりを体験してみてください。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

## そうだ！これこれ②

スーパードお檀家さんとバツタリ

「暑いですねえ」

「住職さんも気をつけてなあ」

「お互いに」

そんな会話の最中にお檀家さんが

「あつ」

「どうしはりました？」

「ガス消し忘れたかも...」

もーその後は「心ここにあらず」

って感じで...

この「気になって、気になって」

が、不安のもと。不安は暮らしの

至る所で宿ります。前によろよろ

したお婆さん、ちょうど隣に並ん

だ時にふらふらと...

幸い壁に手を付き、災難逃れ。

「大丈夫ですか」

「ありがと、大丈夫、大丈夫」

「杖、持たはった方が良いでしょう」と声をかけたら、

「持ってますねん」と笑顔で返事、

辺りを探せど...

「ありませんねえ」という私に、

「ちゃんとありますねん」

「どこにですの」と問うと、

返ってきたのはカバンの中。

「杖で支えるのは体だけやなくて、

心も支えているんやなあ...」

安心もまた暮らしの中の手が届く

所にあるのかも知れません。

この事に気づかず、毎日忙しく

過ごす私達。不安に至らぬように

少し気をつけて、安心を増やせる

ように少し足を止めて、毎日心の

有様を点検できたなら、日々の

歩みは少し心地良いものになるか

も知れません。

この心の修養を、仏教では

「自利の行」と申します。「自

利」は簡単に言うと同じ鍛錬の

こと。こう記せば、厳しい修

行のように思いがちですが、

決してそのような「顔」ばか

りではありません。

おはよう、おやすみ、いた

だきます、ごちそうさまでした、

行ってきます、ただいま...

こうした言葉一つも、心が

けて使えば修行のうちです。

挨拶する自分の前には、挨

拶を受ける誰かがいます。

そして誰かの挨拶に、言葉

で応じる自分。さらには人に

限らず、あらゆる一切との関

係にも同じことが言えます。

その範囲は広大で、いつも上

手く行くばかりではありません。

だからヒヤヒヤすることも

一つや二つ...

もしかしたら、急に「不安」

が減ることがなければ、急に

「安心」が増えることもない

かも知れません。小さな「不

安」と小さな「安心」が繰り返

返しやってくる。これが人の

世界...

でも望むことは、「不安」

は小さくして「安心」を大き

くしたいのが本音。これを叶

える為に、「自利の行」を続

けることが大事になります。

自分の歩幅で、自分のペー

スで少しづつ...

布教師会 溪村 真司

## 年中行事ご案内

孟蘭盆法界大施餓鬼(瑞祥園)

◎八月十六日(日) ■午後六時

万灯会(境内)

◎八月十六日(日) ■午後七時

大和御回在御出光(本堂)

◎九月三日(木) ■午前六時

融通念仏会(瑞祥園)

◎九月十六日(水) ■午前十一時

ご一緒に念仏を称えましょ

う。

百万遍会(大数珠繰り)(本堂)

■午後一時

数珠繰りの後、法主親下の身

体堅固のお加持が参詣者一人

一人に授けられます。

その後御礼授与があります。

亀鉦まつり(瑞祥園)

◎十月十五日(木) ■午前十一時

本山に伝わる亀鉦をお祀りす

る法要の後、融通教会会員に

よる詠讃歌舞奉納、「亀鉦由

来和讃」等を詠唱します。

十夜会(本堂)

◎十一月十四日(土) ■午後一時

本堂に於いて布教、詠讃歌舞

奉納等があります。

後小松天皇忌(盂明殿)

◎十二月一日(火) ■午前十二時

大和御回在御帰院(本堂)

◎十二月十七日(木)

除夜法要(本堂)

◎十二月三十日(木) ■午後十時

定例布教(瑞祥園)

◎毎月二十六日

■午後二時三十分

(日曜日の場合は翌日になり

ます)

行事予定は変更する場合が

あります。

## 話せば心も軽くなる

大阪仏教テレビホン相談室

仏事相談、信仰相談、その他あらゆる人生相談を十宗派の僧侶が

お受けします。

月曜日・金曜日(八月休

でんわ 〇六(六九四九)九〇一〇 午後二時～五時迄

## 二種の御朱印 お披露目

去る五月一日に厳修され

ました「令和の本堂大改修」

落慶法要、ならびに慶讃万

部法要より新しく二種類の

特別な御朱印を作製し、本

堂売店にて授与を開始いた

しました。

今回、意匠を凝らして作

られた御朱印は、いずれも

当山の歴史的な節目と伝統

的な法要の瞬間を美しく写

し取った、これまでにない

珍しい仕上がりとなっております。



## ★写経のご案内

毎月十五日、午前九時三十分

より午後三時まで、白雲閣

大広間にて写経(一巻千円)

を行っております。

## ●お問い合わせ

大念佛寺宗務所

☎〇六・六七九一・〇二二

## 暑中御伺

融通念仏宗 総本山 大念佛寺

管法 長主 吉村 晴英

宗務総長 田中 瑞修

教学部長 沢田 善秀

庶務部長 好野 良博

財務部長 佐々木智祥